



## 2019 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (SUPER FORMULA 2019) 第 7 戦(最終戦):鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市) レース報告書

予選: 10 月 26 日(土)

天候	晴れ	
観客動員数	13,500 人	
成績	アレックス・パロウ 選手(#64):	1 位
	牧野 任祐 選手(#65):	8 位

決勝: 10 月 27 日(日)

天候	晴れ	
観客動員数	22,500 人	
成績	アレックス・パロウ 選手(#64):	19 位
	牧野 任祐 選手(#65):	13 位

### <予選レポート>

開幕戦の舞台となった鈴鹿サーキットへ戻って最終戦を迎える SUPER FORMULA。前戦の岡山大会で 4 位入賞し、ポイントを重ねたアレックス・パロウ選手 (64 号車) は、ドライバーランキング 3 位でこの最終戦に臨むことに。トップとの差はわずか 4 ポイント、最終戦の勝者には通常ポイントとは別途、ボーナスとして 3 ポイントが付与されるため、逆転チャンピオンを狙える位置にいることから、まずは予選のポジションに注目が集まります。

金曜日は生憎の天候で、ウエットコンディションのフリー走行となったため、土曜日の朝の走行は通常より 20 分多く走行時間が設けられました。

予選 Q1 は今回も 2 グループに分かれて実施。まずは A グループにパロウ選手が出走。パロウ選手はトップタイムで Q2 へ進出を決め、続いて行われた B グループで出走した牧野任祐選手 (65 号車) も 2 番手タイムで Q2 へ進出します。

Q2 では 2 台揃ってコースイン。それぞれがアタックを行い、パロウ選手は 5 番手、牧野選手は 6 番手タイムで 2 戦連続 2 台揃って Q3 進出を果たします。

注目の Q3 は残り時間が 3 分半となった頃、パロウ選手がコースイン、続いて牧野選手がコースインし、アタックに挑みます。牧野選手は 1 分 36 秒 621 の 8 番手タイム、パロウ選手は 1 分 35 秒 972 で今シーズン 3 回目のポールポジション (PP) を獲得しました。PP 獲得の結果、パロウ選手は 1 ポイントを追加し、明日の決勝レースにシリーズチャンピオンを懸けて臨みます。

### <コメント>

中嶋 悟 総監督:

「やってくれましたね。明日が大事なことは重々わかっていますが、今日の大事な 1 ポイントであったことは間違いないと思います。あとは、とにかく明日、2 台とも今年の総まとめのレースをしたいです」

アレックス・パロウ 選手:

*"I am really happy. I had a lot of confidence coming here in Suzuka. Q1 was really good but we lost a little performance in Q2, so we made some adjustment on the car. Then Q3 was really good and the car was amazing. We start from the best possible position tomorrow, so I am looking forward to tomorrow and we will win the championship for sure."*

「とても嬉しいです。今回は自信を持って鈴鹿に来ました。Q1 はとてもよかったのですが、Q2 でパフォーマンスが少し落ちてしまったので、マシンを調整しました。その結果、Q3 はとてもよく、マシンの状態は素晴らしかったです。明日は最高の位置からスタートするので、楽しみにしていますし、きっとチャンピオンを取れると思います」

牧野 任祐 選手:

「朝のフリー走行からセッティングを変えてよい方向に向かい、Q1、Q2 までは順調でしたが、Q2 でトップとの差が大きくなったので Q3 に向けて変更を加えました。これが裏目に出てタイムは上がりませんでした。しかし、トップを狙うためだったので後悔はありません。8 番手スタートは戦略次第で色々なことができるので頑張ります」

### <決勝レポート>

決勝日も雲が出ているものの、ドライコンディションで行われました。ポールポジションのパロウ選手はミディアムタイヤを装着してスタートをうまく決めて、そのままのポジションでオープニングラップを終えます。

8 番手スタートの牧野選手はひとつポジションを下げたものの、こちらもミディアムタイヤで順調にスタートを切ります。2 台ともペースよく走行していく中、牧野選手は 7 周目の終わりにピットイン、ソフトタイヤに交換します。パロウ選手も翌周にピットに戻り、同じくタイヤ交換と給油を行い、8 番手でコースに戻ります。パロウ選手はなんとかペースを保って周回を重ねていきますが、18 周目に 2 番手のマシンにパスされ、さらなる後続勢からも攻め寄せられ、苦しい周回が続きます。

半分を過ぎた 22 周目には 10 番手、24 周目には 13 番手まで順位を下げます。その頃、牧野選手は 15 番手を走行し、前に懸命に追走していきますが、こちらも苦しい展開に。パロウ選手はペースが上げられず 29 周目で 2 度目のタイヤ交換を行います。これで最後尾まで順位を下げますが、最終周まで苦しい中でプッシュを続け、19 位でチェッカーを受けました。パロウ選手と同様、牧野選手もソフトタイヤでペースを上げられず厳しいレースとなり、13 位でチェッカーを受けました。

なお、パロウ選手は「ルーキー・オブ・ザ・イヤー」を受賞し、1 年を締めくくりました。

### <コメント>

中嶋 悟 総監督:

「予選まではうまくいっていたのですが…。決勝はソフトタイヤのバランスが悪かったようで、つらいレースになってしまいました。残念ですが来年に向けてまた頑張ります。今シーズンもたくさんのご声援をありがとうございました」

アレックス・パロウ 選手:

*"The strategy was really good and our pace was good in the beginning, but then we had some problem and I could not make a good pace. I was really confident and hungry to win this championship because the team did amazing work this year and they deserve it. Still I am happy and proud about this year because I finished third in the championship, was the first rookie to win the race and had three poles. We will go for win next year."*

「戦略はとてもよく、ペースも最初はよかったのですが、それから問題が出ていいペースを出せませんでした。チームは 1 年を通じて優勝に値する素晴らしい仕事をしてくれたので自信がありましたし、ハングリーでした。それでも今年は選手権 3 位で、優勝した最初のルーキーでしたし、ポールを 3 回取ることができたので、嬉しいし、誇りに思っています。来年もチャンピオンを目指して頑張ります」

牧野 任祐 選手:

「上位陣とは反対のスタートタイヤを選択し、予定通りのピットストップを行いました。開幕戦に比べ今回はかなり厳しいレースになってしまいました。1 シーズンを戦って色々な経験をして、流れが大事だということを改めて思い知りました。1 年間に難うございました」



たくさんのご声援をありがとうございました。

※2020年シリーズ開幕戦は2020年4月4日～5日に鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で行われます。

以上